

「令和3年度全国学力・学習状況調査」の公表に係る教育長コメント

令和3年8月31日

本年5月27日に実施しました「令和3年度全国学力・学習状況調査」の結果が、本日公表となりました。2年ぶりとなった今回の調査は、悉皆調査としては11回目、抽出調査を併せると13回目となります。今年度の高知県の結果としましては、小中学校とともに全国との比較において、前回から改善が見られております。

調査が始まった平成19年度からの経年でみますと、本県の児童生徒の学力状況は、全体的に改善傾向が続いております。これは、児童生徒の努力は勿論のこと、コロナ禍においても各学校、各教職員が「チーム学校」として組織的に授業改善に取り組んでこられた結果だと分析しており、各学校と各教職員の皆さまに心から敬意を表すとともに感謝申し上げます。

それぞれの校種・教科の状況を見ても、まず、小学校の国語については、全国平均との差が+2.2ポイント、算数については、+0.6ポイントで、引き続き全国上位に位置しています。

中学校においては、まだ全国平均には達してはいないものの、国語は、全国平均との差が-1.1ポイント、数学は、-2.6ポイントとなっており、全国平均に近づきつつあります。

特に、国語につきましては、前回の平成31年度と比べると、小学校で2.0ポイント、中学校で0.9ポイントと大きく向上しました。これは、各小中学校において、児童生徒が学習内容を振り返り、自分の思いや考えを書くことなどを徹底して取り組んできた成果であると捉えています。

一方、これまで伸びが見られていた算数・数学については、前回と比べると、小学校で-1.1ポイント、中学校で-0.9ポイントとなり、計算や図形の問題の

知識・技能や、グラフや式を使って論理的に説明することに課題が見られています。そのため、基礎基本の徹底と、数学的に表現する活動を更に強化していく必要があると考えています。

また、質問紙では、新型コロナウイルス感染症の影響やICTを活用した学習状況についての調査も実施されました。

新型コロナウイルス感染症の影響については、臨時休業期間中に勉強に関する不安を抱いていた児童生徒が半数以上いたことが明らかとなりました。加えて、小学校において、自尊感情や将来の夢等に関する質問項目で低下が見られており、この調査からも新型コロナウイルス感染症の影響は、子どもたちの心理面に様々な変化をもたらしていると推測されます。

また、本県のICT機器の活用は進みつつあるものの、一人一台端末を使って子どもと教員、また子ども同士が意見を交流したり、考えを深め合ったりするなどの取組が、一人一台配置となったばかりでもあって、まだ十分でないことが分かりました。

県教育委員会としましては、今回の調査結果を踏まえ、引き続き組織的に授業改善に取り組み、デジタル技術を活用しながら、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを着実に進めることで、高知県の児童生徒の学力の定着と向上に努めてまいります。

高知県教育長 伊藤 博明